

竣工まで責任背負う設計者に



藤本副会長

建設コンサルタント協会近畿支部（後藤浩一支部長）は24日、大阪市福島区のホテル阪神で、講演会「社会資本整備の動向と建設コンサルタントの役割」を開いた。会員ら約100人が参加し、建設コンサルタントが現在置かれている立場や今後すべきことについて、講義を受けた。冒頭、菅原武之総務部会長は「現在、この業界はどの企業も苦しい経営状況にある。われわれだけでなくこの業界も危機的

建設コン協
近 畿 支 部

講演会に約100人参加

状態にあるが、建設コンサルタント業界全体が生き残る方策を考えていきたい」とあいさつした。

講演会では、かつて近畿地方整備局長も務めた藤本貴也建コン協本部副会長が、2009年度の国交省関係の予算概要や国土形成計画など、社会資本をめぐる状況の変化などについて解説した。建設コンサルタントの役割について、藤本副会長は「設計した土木施設が竣工するまで責任を持つのが建設コンサルタントの本来の姿だが、実際はそうっていない。発注者の補助的な存在から、自立し責任を背負う設計者になるべきだ」と述べた。